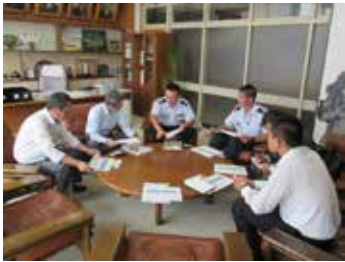




地本部長が防衛白書を各市町長へ説明



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、9月25日（月）に菊川市役所、10月2日（月）に磐田市役所、袋井市役所、森町役場、10月4日（水）に掛川市役所、10月16日（月）に御前崎市役所において「平成29年版防衛白書説明」を実施した。

これは、各自治体に対して防衛省・自衛隊の活動や現在の安全保障環境などについて理解を深めてもらう目的で、毎年防衛白書の出版に合わせて行っているもの。今年度も防衛省南関東防衛局（神奈川県横浜市）と静岡地方協力本部が協力して県知事や県内の各市町長に対し、今年度の防衛白書の内容について説明を行った。

今年度の防衛白書は、従来の「装備品」などの表紙から一変し、組織を支える「人」を主としたデザインに変わり、「防衛力を支える人的基盤と女性隊員の活躍など」について新たに章立てされたほか、一層厳しさを増す安全保障環境や戦略的な国際防衛協力などについて写真やグラフを使い分かりやすく紹介されている。

磐田、袋井、掛川各市長と森町長に対しては、静岡地本部長が、御前崎市長に対しては南関東防衛局・武田和仁企画部次長が説明を行い、各市町長からのさまざまな質問などに対しても丁寧に回答し、防衛省・自衛隊への更なる理解を得ることができた。静岡地本は、今後も県知事や県内の各市町長に対する防衛白書説明を継続し理解を深めてもらうとともに、緊密に連携を図り防衛基盤の強化に努めていく。

「樹空の森」で地域住民とふれあい



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月1日（日）、富士山樹空の森（御殿場市）で行われた「第6回富士山樹空の森自衛隊とのふれあい祭り」に参加した。

これは、御殿場市富士山交流センターが主催し、地域住民と自衛隊との交流をより深めるために開催されたもの。イベントでは、樹空の森で普段から展示されているUH-1ヘリコプターの内部見学、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地（御殿場市）による高機動車の体験搭乗や82式指揮通信車・96式装甲車展示、炊事車両による豚汁の500食無料配布、陸上自衛隊富士音楽隊（駿東郡小山町）による音楽演奏などさまざまな催しが行われた。

当日は天候にも恵まれ、会場は自衛隊との交流を楽しみに多くの来場者で賑わい、車両の体験搭乗やヘリコプターの内部見学には来場者の長い列ができていた。富士音楽隊は、スピード感あふれる楽曲や迫力ある演奏で観客を魅了していた。

また、静岡地本の「しずぼん」、滝ヶ原駐屯地の「たきすけ」、樹空の森の「じゅくちゃん」という各団体のマスコットキャラクターがコラボで登場すると、周りに子供たちが集まりそれぞれのキャラクターの名前を大きな声で呼びながら、抱きついて交流するなど会場は大いに盛り上がった。

静岡地本は、今後も地域のイベントに積極的に参加し、多くの地域住民との交流を深め、自衛隊への興味・関心を高められるよう努めていく。

陸上幹部自衛官の登竜門を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月2日（月）と3日（火）の2日間、陸上自衛隊幹部候補生学校（福岡県久留米市）で行われた研修に採用予定者2人を引率して参加した。

この研修は、来年3月に陸上自衛隊幹部候補生として採用予定者に対して、将来目指す幹部自衛官への具体的なイメージを持ってもらうとともに、同期生となる参加者同士の親睦を深めることを目的に実施された。

1日目は、一般大学を卒業し幹部候補生学校に入校した現役幹部候補生との懇談を行い、候補生は研修者からのさまざまな質問に対し一般大学出身者ならではの適切なアドバイスをして、それぞれの不安感払拭に努めていた。

その後、懇親会が行われ、来年の4月に同期となる68人の参加者が互いに自己紹介や将来への希望を語り合うなど絆を深めた。

2日目は、入校生の生活環境の確認、英語教育や戦術教育の実習現場を見学した後、学校長による講話が行われた。学校長・鬼頭健司陸将補は講話の中で「幹部は部隊団結の核心であり、この学校では部下の心をひきつける能力と魅力を身につけることができる。皆さんの入校を待っている」と激励の言葉を送った。

参加者からは「幹部候補生がどんな理念のもと教育を受けているか、どんな気持ちで学んでいるのかなど、肌でしっかり感じる事ができた」「来入校するための心の準備ができた」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような現場を感じられる研修を活用して、入隊予定者の疑問や不安などを払拭できるように努めていく。